

世界のあしたが見えるまち。



筑波大学 生命環境系 水圏生態学研究室
助教 Yuko Omori 大森 裕子 さん (34)

東京都生まれ、千葉県育ち。筑波大学第二学群生物学類卒業後、同大学院生命環境科学研究科で博士号(理学)取得。国立環境研究所の地球環境研究センター特別研究員を経て、現在は筑波大学水圏生態学研究室で海洋微生物による物質循環の研究を行うほか、生命環境系助教として学生の指導にあたる。

つくばで輝く
女性研究者

研究室にて

研究室にて
リアは小さい生き物なの
培養実験も行う。バクテ
研究船に乗り込
にするため学術
や動態を明らか
し、その放出量
の手法を開発
し、その放出量
を計測する
ルの大気への放
なる硫化シメチ
いる。雲の元に
ことが知られて
暖化に影響する
気候や地球温
の形成を促し、
ると雲やオゾン
部は海面から大
その有機物の一
物を作り出す。
微生物はさまざま
ンやバクテリアと
海洋の植物プランク
《海洋の謎を探る》

海洋微生物が動かす 地球の物質循環を探る

その魅力を知ってほしい
と目を輝かせる。
研究分野。たくさんの人に
議が。いっばいある研
すが、まだまだ不
重要な役割を持ちま
地球のメカニズムに
が刺激された。「海は
会により研究意欲
な海洋研究者との出
鳳丸」では、さまざま
丸」では、さまざま

に大きなことをしている
と驚きます。謎を秘めた
海洋の研究は面白い発見
の連続です。この海洋表
層における溶解有機化合
物に関する生物地球化
学的研究は、2017年
に日本地球化学会奨励
賞を受賞した。
《不思議な海の魅力》
海との出会いは、中2
の夏に弟と一緒に参加し
た三宅島でのサマース
クール。海洋生物学者指
導のもと海と山の遊びを
楽しむ中、海の魅力
に引かれていった。大
学は海の生き物を学
べる生物学類に進学
し、大学院では海洋
の有機物の動態に関
する研究に取り組み
博士号(理学)を取
得。修士の時に乗船
した学術研究船「白
鳳丸」では、さまざま
な海洋研究者との出
会いにより研究意欲
が刺激された。「海は

その有機物の一
部は海面から大
気中に放出され
ると雲やオゾン
の形成を促し、
暖化に影響する
ことが知られて
いる。雲の元に
なる硫化シメチ
ルの大気への放
出量を計測す
る手法を開発
し、その放出量
を計測する
る手法を開発
し、その放出量
を計測する



洋上の観測風景



学生時代の親友、今は「ママ友」。

《つくばの暮らし》
学生時代から満喫して
いたつくば暮らしは、「学
生同士の距離が近く、毎
週のように鍋パーティー
をして楽しかった。結婚
後、時は東京に居を構え
たが、再度つくばに移住
昨年男児を出産後、職場
復帰した。「白鳳丸」の船
上で出会った夫は、海洋
研究にも理解が深く、妻の
仕事を応援している。「学
生の時はつくばエクスプ
レスもなく不便でした
が、今は美家との交通ア
クセスも良くなり、母に
子育てを手伝ってもらえ
て助かっています」。東京
や千葉に住む学生時代か
らの親友たちは、今や「マ
マ友」。時折集まり子育て
の情報を持ち寄り交流し
ている。